

まち・ひと・しごと創生

「市人口ビジョン」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

人口減少や少子化の問題は、我が国共通の課題です。当市が将来にわたって活力ある住みやすいまちでありつづけるために、「市人口ビジョン」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。その主な内容を紹介します。

企画政策課

☎995-1804

「富士山の裾野 田園未来都市 すその」の挑戦



「市人口ビジョン」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容や「市まち・ひと・しごと創生の推進体制」、「市まち・ひと・しごと創生会議の活動報告」などは、市公式ウェブサイトに詳しく掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.city.susono.shizuoka.jp/ma/creation/machi-hito-sigotosousei.php>

裾野市
まち・ひと・しごと

創生

「市人口ビジョン」 人口ビジョンが描く「2060年 目指す将来の姿」

2060年に人口5.2万人程度を確保し、高齢化率28%台を目指します。

～長期的(2080年以降)には、人口5万人程度・高齢化率25%台で安定～

人口政策のポイント

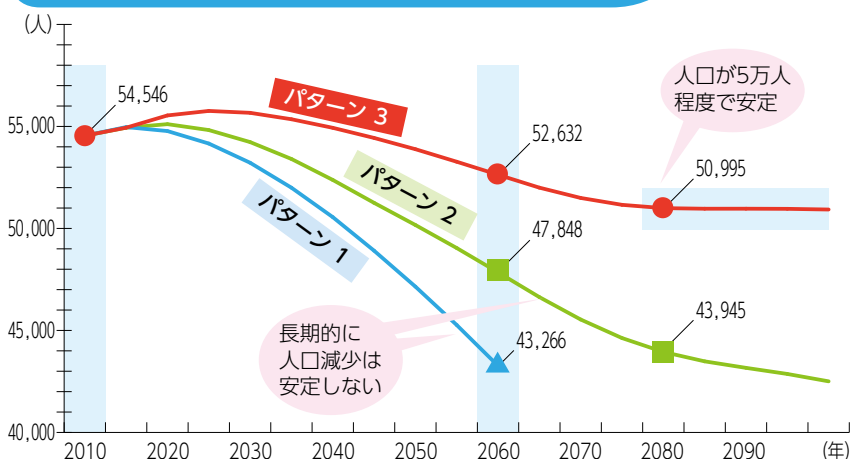
① 2020年に合計特殊出生率^{※1}を2.07に向上

当市の現在の合計特殊出生率は1.82。一方で、市民の皆さんが希望する子どもの数は2.55人です。もう1人子どもが欲しいという希望がかなう環境づくりとして、合計特殊出生率2.07を目指します。

② 2016年以降、親子世帯20世帯の転出を解消

転出で大きな割合を占めるのは、20歳代後半から30歳代前半の親世代と、その子ども世代の家族世帯です。現在、宅地分譲を促進し、年間20以上の宅地を創出している実績から、年間20世帯の定住を目指します。

将来人口の見通し



パターン 3 ～将来像に向けた取り組み～

2020年に合計特殊出生率が2.07に向上し、毎年20世帯の家族世帯が定住した場合
▶人口政策のポイント①②を達成したケース

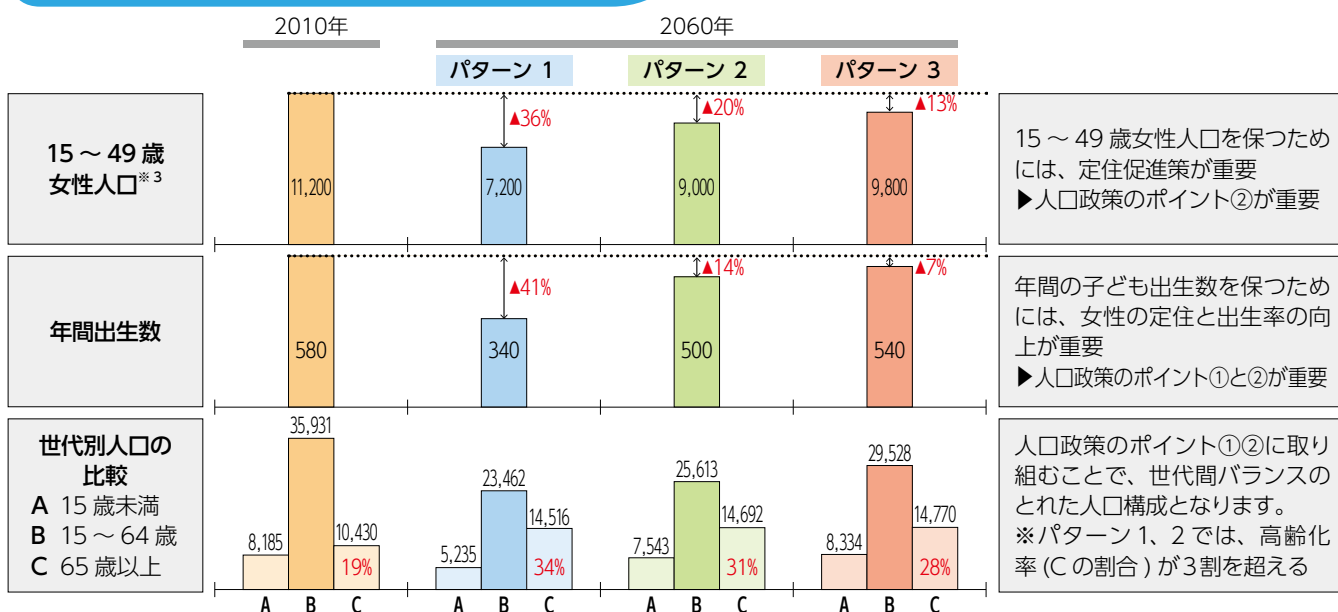
パターン 2

2020年に合計特殊出生率が2.07に向上し、転入がなくなったと仮定した場合
▶人口政策のポイント①のみ達成したケース

パターン 1

転入の動向が現状の人の流れのまま推移した場合(社人研推計準拠^{※2})
▶現状のままの動向で推移

3パターンを比較 ～パターン3を目指します～



15～49歳女性人口を保つためには、定住促進策が重要
▶人口政策のポイント②が重要

年間の子どもの出生数を保つためには、女性の定住と出生率の向上が重要
▶人口政策のポイント①と②が重要

人口政策のポイント①②に取り組むことで、世代間バランスのとれた人口構成となります。
※パターン1、2では、高齢化率(Cの割合)が3割を超える

※1 合計特殊出生率: 1人の女性が生涯を通じて産む子どもの数

※2 社人研推計準拠: 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口の試算に準拠した数値

※3 15～49歳女性人口: 合計特殊出生率の算出において出産する世代として仮定される人口

「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：平成27年度～平成31年度） 人口ビジョンで描く将来像に向けた具体的な取り組み

「富士山の裾野 田園未来都市 すその」の挑戦

「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」の3つの施策で「裾野らしい」まちづくりを展開します

当市は“富士山の裾野の、水と緑あふれる、東京 100km 圏内の田舎”。

「世界遺産 富士山」「世界かんがい施設遺産 深良用水」をはじめとする地域文化や、グローバル経済圏で活躍する企業をはじめとする産業集積の進んだまち。

今後も、豊かな自然の中で、未来志向の個性あるまちづくりを進めます。



“共生” 「住みたいまち裾野」のまちづくり

①裾野市らしいデザインのまち すその

- 地区の強みを活かした地域づくりの推進

▶ 主な事業／職と住をつなぐ手段の調査研究事業

裾野～東京圏や静岡市などの間の通勤・通学の実態調査を行い、交通体系編成の基礎資料を作成します。

②住みたくなるまち すその

- 住みたくなる住環境の形成、出歩きたくなる地域の創出

▶ 主な事業／宅地分譲促進事業

市街化区域内の未利用地の優良宅地化を促進するため、一定の基準の宅地分譲事業に助成します。



- まちの骨格をなす幹線道路の整備
- 市民・企業・行政が一体となった防災・減災の備えの構築

▶ 主な事業／企業と連携した災害時の体制整備

大規模災害時における地域連携・支援を強化するため、企業との災害時相互支援体制を構築します。



③文化資源を守り、育て、活かすまち すその

- 当市を象徴する地域資源の保存・活用の推進

“共育” すべての起点となるひとづくり

①人と人の関係を豊かにするまち すその

- ひとづくり、地域活動支援の推進

▶ 主な事業／市民活動センター運営事業

NPO やボランティアなどによる市民協働の推進と地域振興を図ります。



- 市内外での裾野ファンの拡大

▶ 主な事業／「眠れる資源・隠れた魅力」発掘発信事業

眠れる資源や隠れた魅力を発掘し、シティプロモーションを展開します。

②みんなで子育てするまち すその

- 出会いの場の創出や結婚の環境づくり
- 妊娠・出産育児の切れ目ない相談・支援の充実

▶ 主な事業／認証保育施設支援事業

安心して働き、子育てできる環境整備を図るため、一定の基準を満たす認可外保育施設の運営費などを助成します。



- 子育て世代がいきいき活動できる環境づくり

③子ども達の生きる力を育むまち すその

- 豊かな心を育む教育の推進
- 学校の教育力の向上

今回策定した総合戦略では、「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」それぞれに3つの目標を掲げ、取り組みを展開します。

“共栄”まちやひとを豊かにする産業づくり

①企業・事業所とともに歩むまち すその

- 企業・事業所の事業活動環境の整備

▶主な事業／企業立地促進事業

企業の誘致や立地維持を図るため、事業用地取得費建物機械設備取得費などに助成します。

②地域資源を活用した豊かな産業のまち すその

- 地域資源を活かした稼ぐ力の創出

▶主な事業／特産作物奨励助成事業

自然環境や地域資源を強みにした産業振興に向け、特産作物の栽培に助成します。



③働くひとのチャレンジを応援するまち すその

- 誰もが新たなしごとにチャレンジできる環境の整備

▶主な事業／中小企業相談支援事業

実績のある相談支援専門機関と連携して、常時中小企業や個人事業者からの相談を受け付けます。個人の企業推進や中小企業の事業拡大による地域活性化を図ります。



戦略の推進に不可欠な視点

総合戦略の推進にあたり、次の視点を重視します。

①情報発信

「裾野らしい」ライフスタイル、ワークスタイルを提案する積極的な情報発信

②市民協働

市民、企業、各種団体、行政など地域づくりのさまざまな担い手の連携・協力を促進

③広域連携

共通の課題を抱える市町間で、より効果的な課題解決に向けて連携を推進

策定までの動き

人口ビジョン・総合戦略の策定にあたり、市民の皆さんと各種関係団体の皆さんと意見交換を行いました。

①市まち・ひと・しごと創生会議

市長が議長となり、市民やNPO、関係団体、民間事業者の方などが参加する「市まち・ひと・しごと創生会議」を6月に設置しました。6月から4回開催し、協議を重ねました。

②市議会

9月に意見交換を実施。すべての会派から、100件を超える意見がありました。

③パブリックコメント

9月に市民の皆さんから意見を募集しました。7人から16件の意見が寄せられました。